

IV 算数 2年次の成果と課題

1 成果

(1) 統合的・発展的に考えるための省察の場の設定

問題把握場面、「仲間との対話」の中で学んだことを自力解決での考えと比べながら修正したり、再構築したりする場面、学習の終末に1単位時間全体をふり返る場面を設定した。それにより既習とのつながりを捉え、課題に応じた「見方・考え方」を働かせて課題解決へ向かう姿が見られたことが成果である。

学習問題を捉える際に、前時での学習と本時とのつながりを結び付けて何を解き明かさなければならないのか、瞬時に考えを巡らすことができる場合もあれば、前時との違いに気が付いていても解決方法を見付けられず、思考が止まってしまう場合もある。全体で問題場面の違いを捉え、現時点での課題を共通理解することにより、一人一人が解決の見通しをもち、課題解決に必要な「見方・考え方」を見付け出そうとする姿が見られた。

「仲間との対話」を基にして自分に必要なこと、大切なこと、気を付けることをメモすることで、自分だけでは気付かなかった考えや学びを再構築する。そして、終末でのふり返りでは「次は〇〇の問題ができそう。」「家の中でも見付けたい。」といった、自ら学びをつなぐ主体的な姿が見られた。省察場面を効果的に設定したことにより、数学のよさに気付き、よりよく問題解決しようとする態度、学びを生活や次の学習に活用しようとする態度を養うことにつながってきている。

(2) 子どもたちの問いをつなぎ、学びを深める単元構成の工夫

前時のふり返りや子どもの問いをもとに学習問題や本時のめあてを設定する活動を取り入れることで、次時の学習課題について見通しをもって取り組む子どもの姿を引き出すことにつながったことが成果である。

2年「1を分けて～分けた大きさのひみつをさぐる～」では、前時のふり返りから学習課題を設定する活動を取り入れてきた。本時では $1/2$ や $1/4$ の学習から、 $1/3$ という分数の大きさに疑問をもった子どもの問いをもとに、学習問題を作った。自分のもっている $1/3$ の大きさの色画用紙についてもとの大きさを予想する場では、前時までの学習を生かして見通しをもって取り組むことができた。

5年「比べてみよう 表してみよう ～割合～」では、導入で前時と本時の問題場面の状況を比較する場を設定した。定員と希望者の人数の違いについて確認し、子どもたちの言葉をつなぎながら本時のめあてを設定した。「仲間との対話」の中で、基準量や比較量をどのように判断して立式したのか、根拠を明らかにして考えの比較・検討が行われた。「基準量と比較量の判断は数の大きさにかかわらないこと」「場面の状況を捉えることが大切であること」に気付き、適用問題では場面の状況を捉えて、割合を求めることができた。

前時のふり返りでは、その時間の学びに対するもの以外に「この考え方だと、次は〇〇もできそう。」などと発展的な気付きをするものもある。本時のめあてを設定する際にも既習を活かすという点だけでなく発展的な気付きなども含めて前時のふり返りをつないだり、前時と本時の比較の際に出された子どもたちの問いをつないだりしたことで、既習と関連付けながら見通しをもって学習に取り組む姿につながったと考えられる。

2 課題 省察することで、さらに主体的に学びに向かう子どもの育成

算数科において本校で重視する省察場面の有効性は成果で述べたが、今後は子どもたち自らが必要に応じて省察する力を高めていくことが必要だと感じる。

問題把握場面において、「前の問題と〇〇が違う」と具体的に指摘することが多くなってきている。子どもたち自身が既習との違いを捉えたり、「今日はどんな『見方・考え方』が使えるか」などという「見方・考え方」を判断したりする省察を行っているからであると考えられる。しかし、「仲間との対話」を経て、そこから学んだことや考えを再構築する場面では、分かったことや本時の学習をまとめることに終始する場が未だに多い。その段階から一歩踏み出して、本時の「見方・考え方」を用いたら次はどんな問題ができそうか、今の自分たちならばどんな問題が解けるようになったか、自分のことを俯瞰して考えることができるようになることが必要である。また、本時の学びを確かめる適用問題についても、教師から与えられたものに取り組むことが多い。これからは、本時の学びを生かして自分たちで発展的に考えた問題に取り組んでみるなど、自分で判断して学びをつなげていくことが必要となる。「仲間との対話」の後の省察によって、適した「見方・考え方」を見だし、単元の中でその「見方・考え方」を自覚的に働かせていくことができるようにしたい。そのためにも、単元の導入で課題解決のための様々な「見方・考え方」を出し合ったり、考えを比較・検討したりするなど、「仲間との対話」を充実させつつ、自らの省察を生かして、主体的に課題を見付けたり、困難を解決していこうとする態度を育む授業を実践していきたい。